根源寓紫

十二

帝國
1580
12

門 へ遠13
號 1580
卷 12

千三

松嵜宣孝朝臣

此所より東四百の道摩が物語なり

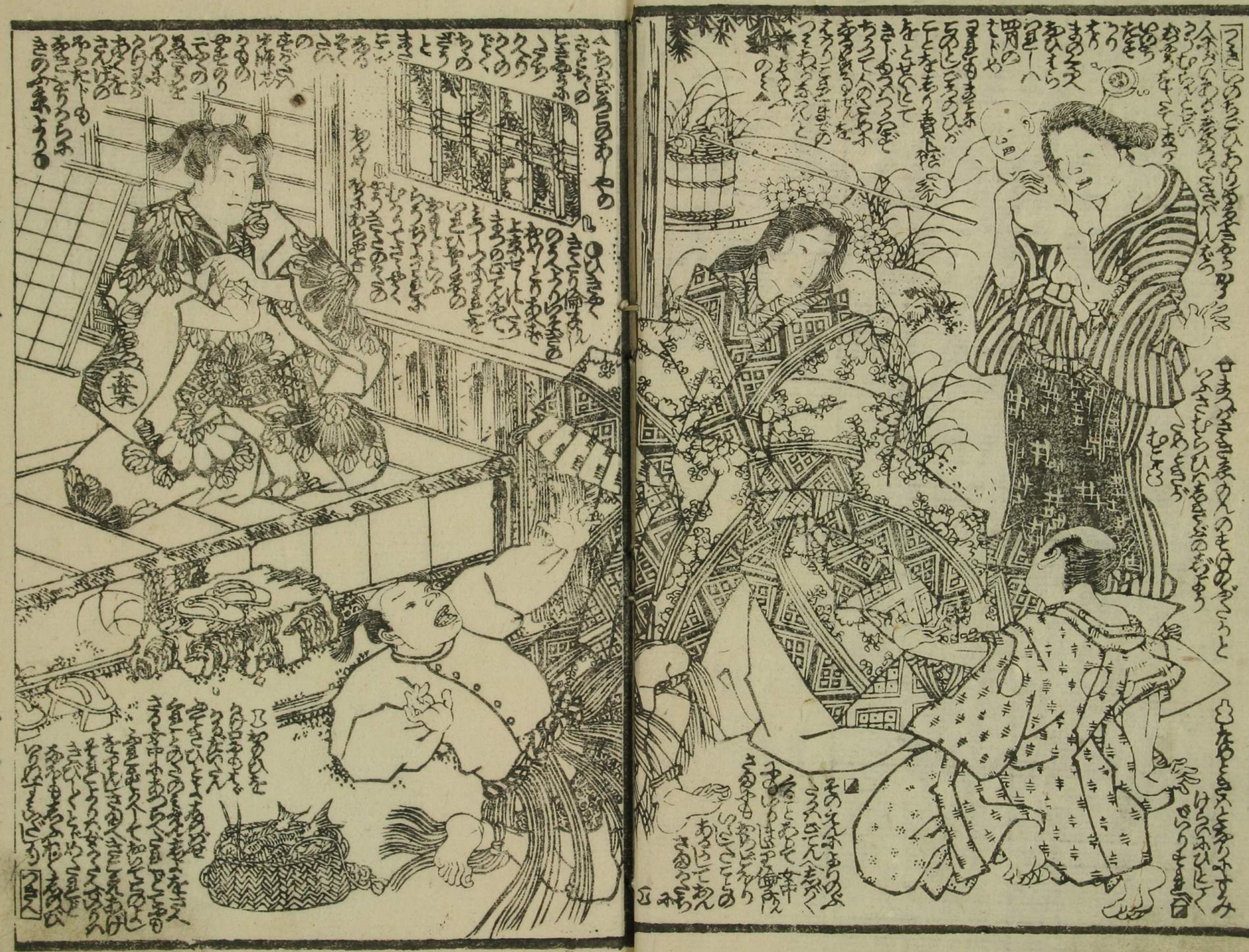
廿余年以前の事と今年三月下旬より六月おいくる

つゝき

まづ[illegible]

道

晴

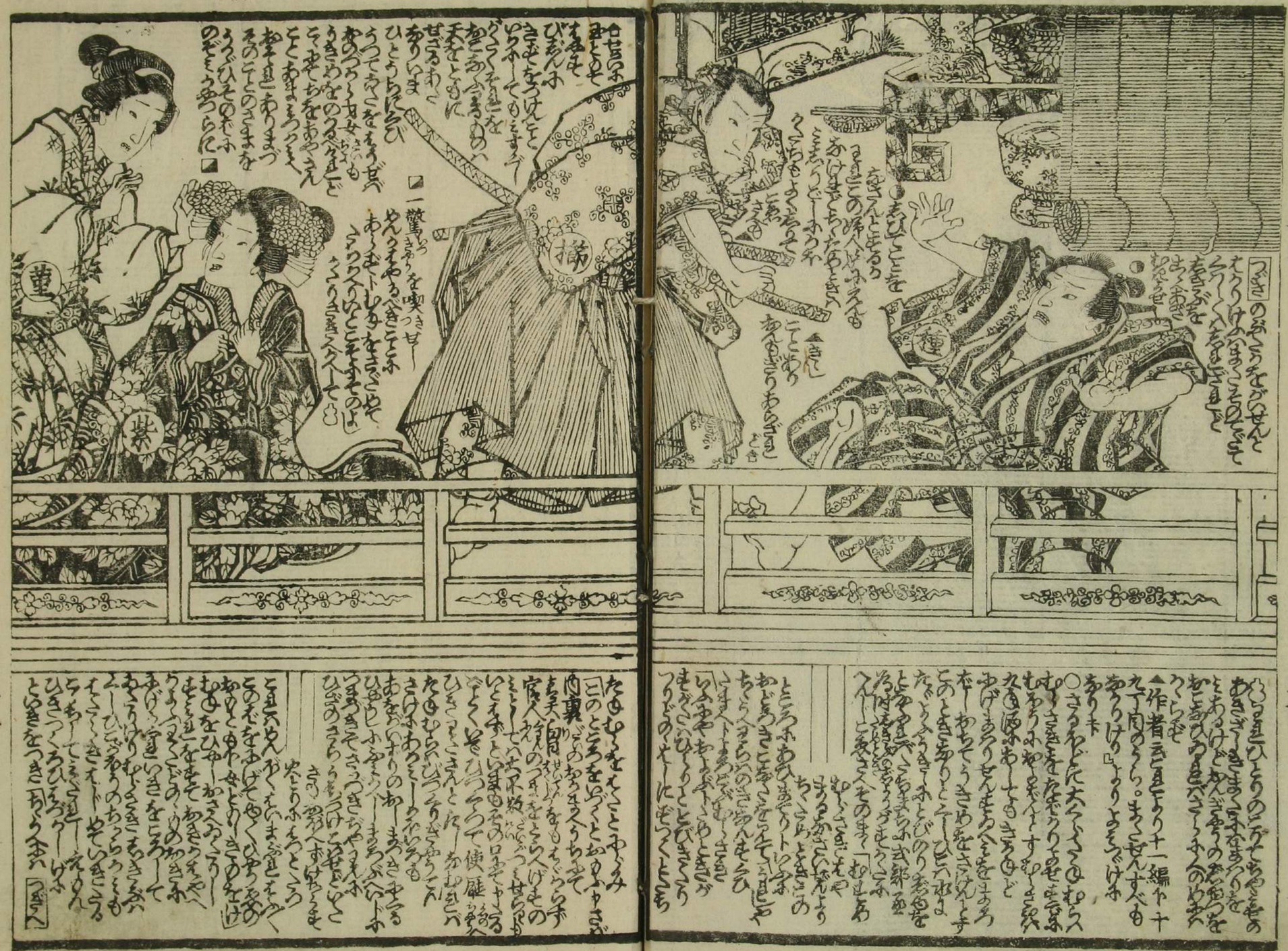


糸
糸
汐黒作
貞通

三
糸
糸

掃

丘
種



つぎ のぶてうをかいせんと
たろうけんまくこころのそこを
うりくくとたまごを
きぶを
ちくあさ
ちくとを

●あひてことを
なさんとをるろ
まことの婦人げふそれも
あけまちくたちとき
こまりどーわろ
くちもよくたろそ
こと

きん
こことわり
あんもぎりわ

くらこと一ひとりのこゞてちやこをの
あきざーきまくこゝまあつりを
とあつけどあんぎやうのだあつを
おとまひのまべさーふへのりあへ
くらぞ
▲作者云ことより十一編や十
九ゝ同のうら。まくせんずべも
あろけり』ようよそげふ
ありキ
○さろわどに大くくくひむらス
むりさきをなぞうりもをきを系
むありふやふくくすりさ沢八
九も源ふあーしもきろひど
あげあろりせんまろくををはのろ
ホーわちてうきゆをさけんよす
このときありとこーしひへホよ
たぐとうふうきーふとびのり考色を
とやるこべくちやまらふ武紋五
ろ内はたとのぞうげまもくこふ
へんーと表さへをのまー「むとあ
ひくさまれや
まるあさんぶんよう
ちくさんとをきこの
とろふあひまぞりトいふ
おどろきことをさをそーうまとや
ちくくさらいのさあんをらひ
さすへトよろどむーさを
いふふをやーぞーさりとをきげ
まぐさいひーりことびきくう
つりどのーせーにぞくとをち

たるむりをくことやくみ
このところをぬくとおりふゃさが
裏のあるそくうちまで
まえ曽ぞのあるそくうちまで
宮人えんのつまをくらんげもの
ぞうしていたが数ぐらせらぶも
いとえぞうとはまもそのロまゃるる
ぞくくをひつくつて使屋ゑへ
ひきくとくきんとたーかおもこバ
たるむらいひつくりさやうてん
さけふわくこーこれいろる
あをびいすりのあーまあきゃるる
ひやひしふふふーまるぶいふふ
つまるきそさうつきちやまふ
ひぶのさらうちつけこをどいとこ
さう ゑへすけやくまも
やとりふちつとくろ
こまえいまぶまをぞく
このむをあげそやくひやうあの
ありとゆやをとのーきこのをけ
むをひゃーおさへくこうー
まをえまをそあきうえゃへ
うくつくくどのりめのあきふ
あげくーこまいきをくろーて
あこうけりやくくきちあきふハ
こーひこぶあうのあくらくもも
ゑくくくきゑトドやそいきこう
ちあーてくくまゑーえくん
ひきつくろひえろくーげふ
とくきをつきちくふハ

つぎへ

目
野
月
西
男

下
上
水用

國貞畫
仙果著